

The Infor logo is a red square with the word "infor" in white lowercase letters. A small "TM" trademark symbol is located at the bottom right of the square. The background of the top half of the page is a photograph of a server room aisle with blue server racks on both sides, leading to a bright light at the end of the aisle under a blue sky with white clouds.

infor™

Infor M3 Cloud (クラウド版ERP)

デジタルトランスフォーメーションの礎を築く

世界がかつてないほどのスピードで変化し続ける中、競争力を維持し、競合に勝つためには、これまで以上に俊敏に行動し、新たなテクノロジーを取り入れる必要があります。クラウドへ移行することは、そのひとつの手段です。しかし、クラウドへ移行するだけでは、ビジネスを完全に変えることはできません。少なくとも、最新かつ柔軟性の高い基盤を手に入れれば、今日だけでなく、将来にわたって貴社のトランスフォーメーションをサポートする準備は整います。

変化し続けるニーズに すばやく適応する

Infor® M3 Cloudは、操作性、テクノロジー、拡張性において非常に柔軟なSaaS型のクラウドサービスです。M3 Cloudは、貴社のビジネスの成長に合わせて、複数会社や複数サイト、複数の国の要件に対応できるERPソリューションです。

M3 Cloudは、インフォアが提供する業界特化型のCloudSuiteソリューションのひとつであり、複雑な混合モード生産や流通業務の負担が大きい業種に対応できる強固な機能を標準機能として提供するだけでなく、貴社固有のビジネス要件に合わせて設定することができます。また、M3 Cloudは、セキュアな環境を低い総所有コスト (TCO) で利用できるアマゾン ウェブ サービス (AWS) 上で運用されています。

Infor M3 Cloudは、業界に特化した豊富な機能で特有のビジネス要件に対応できるオンデマンドなクラウドサービスです。

固有のニーズに対応

インフォアが提供するCloudSuiteソリューションは、化学、流通、設備機器、ファッション、食品飲料、産業用機械製造などの業界に特化した最先端の機能を提供します。M3 Cloudは、23カ国語、42カ国のローカライズ要件に対応しています。

M3 Cloudでビジネスを変革する

未来への確実な道

M3 Cloudは、すでに導入効果が実証された業界特化型の機能と、今後の業界ニーズに対応できる機能を提供することで、将来のビジネスの発展を約束します。

低いTCO

クラウド上でインフラストラクチャを共有することで、運用コストだけでなく、導入にかかる時間やコストを大幅に削減します。オンプレミスのシステムにかかる高額な保守費用も不要です。

アップグレードが不要

貴社のソフトウェアはすべて、インフォアがひとつのバージョンとして管理し、大規模なアップグレードもインフォアが代行しますので、貴社がアップグレードに頭を悩ませることはありません。

新しいイノベーションを早く取り入れる

インフォアは、定期的に大幅な新機能を開発・リリースしますが、それを取り入れるかどうかは、お客様次第です。まずは、新機能をテスト環境で確認し、納得したうえで本番環境へ適応することができます。

柔軟性と拡張性

貴社のビジネスのニーズの変化に合わせて、リソースやコンピュータ処理能力を柔軟かつ簡単に拡張することができます。

セキュリティ

セキュリティは、多くの企業にとって、コストやリスクが増える要因となります。インフォアやAWSなどのベンダーは、Webサービスのセキュリティに大規模な投資を行い、経験も豊富であることから、こうしたベンダーが提供するクラウドサービスを利用したほうが、より安全であると考えられる企業が増えています。

クラス最高レベルの障害耐性

M3 Cloudは、フォールトトレラントな優れたインフラストラクチャとバックアップ機能で、目標復旧時点 (RPO)を最小化します。

オープンな要件対応

M3 Cloudの最新かつセキュアな統合ツールを使って、他社製品の標準/カスタムBODやAPIを取り入れることができます。

ビジネスの成長

さまざまな市場が革新的で新しいビジネスモデルの破壊的な影響を受ける中、こうした新しいビジネスのやり方に適応するために、テクノロジーを活用することが注目されています。クラウドの柔軟なプラットフォームを利用すれば、ビジネスの成長や競合との差別化、ビジネスモデルや業務プロセスの俊敏な変更をサポートするデジタルトランスフォーメーションを継続的に実施することが可能です。また、新規ビジネスの統合やユーザーのオンボーディングが容易になります。

繁忙期にだけ処理能力をオンデマンドで追加し、新たにユーザーを追加するなど、変化し続けるニーズに対応できる柔軟性とスケールビリティを手に入れることができます。

コンプライアンス

次々と変更される規制や法定調書に対応しなければ、コンプライアンス違反による罰金や刑罰を受けるリスクが高くなります。常に最新の法規制に準拠していなければならない企業にとって、M3 Cloudは、月次で新機能を提供し、各国の最新のローカライズ要件に対応することで、コンプライアンス違反のリスクを回避するのに役立ちます。

予測可能なコスト

SaaS型のクラウドサービスとして提供されるM3 Cloudなら、資本投資型のモデルから運用コスト型のモデルへ移行して、以下のような多くのメリットを得ることができます：

- 数年毎に発生する大規模なアップグレードのために、設備投資費の負担に悩む必要はありません。
- 設備投資を削減した分だけ、ビジネス成長のためになるような投資、たとえば買収や新たな倉庫の立ち上げ、機器の購入、新規店舗のオープンなどに予算を充てることができます。
- SaaS型のクラウドサービスなら、予測可能な運用費用として年間のIT予算を簡単に予測できるようになります。また、買収に伴うIT計画や予算の策定もスムーズに行えます。

- クラウドサービスなら、不要な設備投資や処理能力のために費用を負担する必要がありません。つまり、IT費用が売上とより緊密につながるといことです。
- 使った分だけ支払えばよいので、キャッシュフローがより円滑に流動し、最新の機能とテクノロジーを利用しやすくなります。
- 高額なITインフラストラクチャのアップグレードが不要になれば、業務の中断やそれに伴うリスクがなくなります。

システム管理を任せる

M3 Cloudを利用し、IT部門の負担が軽減されることで、IT部門は、より付加価値の高いサービスを管理者やエンドユーザーに提供できるようになります。システムの運用は、インフォアとAWSに任せて、貴社はコアのビジネスに注力することができます。

M3 Cloudは、貴社の繁忙時や安定時によって異なる処理能力のニーズに合わせて、簡単にかつ動的に変更することができます。季節変動や想定外の変更があったとしても、リソースの心配をする必要はありません。

またインフォアとAWSには、セキュリティを社内で管理するよりも、はるかに豊富なリソースやスキル、経験があります。貴社のデータベースは、クラウド上で他の利用者とは完全に隔離して管理されます。

スキルの問題を解決

老朽化した社内開発システムをサポートできる人員を確保するのは一苦労です。ミッションクリティカルなオンプレミスのアプリケーションやシステムが障害を起こした時に、そのシステムに精通している人材が、タイムリーにその場に、あるいは近くにいるとは限りません。

M3 Cloudに移行すれば、社内にこのような専門家を24時間365日待機させる必要がなくなります。代わりにインフォアが貴社のソリューションに責任を持って対応します。

また最新のテクノロジーを使用することは、ミレニアル世代の人材を獲得することにもつながります。M3 Cloudの最新のテクノロジーと魅力的なユーザーインターフェイスなら、有能な新人を採用し、離職率を低減することができます。

シームレスな拡張性

M3 Cloudは、Infor OS（オペレーティングサービス）が提供するテクノロジープラットフォームを使用している点で、従来のERPシステムとは一線を画しています。Infor OSは、組織全体のエコシステムの基盤となり、貴社に固有のニーズを満たすようにM3 Cloudを設定できる拡張性の高いプラットフォームです。たとえば、使う人の役割に応じたホームページのカスタマイズや担当者同士のソーシャルコラボレーションの促進、ワークフローやアラートを使った業務の効率化、Infor ION®やAPIなどを利用することができます。

シームレスな連携

消費者レベルのユーザーエクスペリエンス—M3 Cloudは、簡単かつスピーディに、安全で信頼できるデータを使って効率的に業務を進められるように設計されています。ユーザーは、スマートに作業できる、直感的で使いやすい、柔軟なユーザーエクスペリエンスを実感することになるでしょう。M3 Cloudは設計から本番環境における運用にいたるまで、ソリューションのすべての側面において、継続的に改善、最新化、簡素化され続けています。

Weベースのホームページ—M3 Cloudのホームページは、使う人の業務や役割に応じたビューを作ることができます。たとえば、複数のアプリケーションから担当者が業務に必要な情報を収集し、ホームページ上に表示することが可能です。ひとつの画面上に必要な情報（主要業績評価指標やアラート、投稿、タスク、文書など）を集めて確認することができれば、必要なデータをすぐに確認し、すばやく正しい決断をできるようになります。

ソーシャルビジネス—M3 Cloudのコラボレーション機能は、ソーシャル ビジネス テクノロジーを使用して、関連する情報を関連するユーザーと共有化できるコミュニケーションスペースです。やり取りされた内容は、すべて監査証跡として記録されます。アクションが必要な時に決断を促すイベント駆動型のワークフローで、ユーザーの業務や作業内容に応じたビジネスインテリジェンスを提供します。必要な時に、必要な情報をリアルタイムに確認し、的確に判断してタスクを完了できるようになります。

モバイルアクセス—オフィスや自宅から、あるいは移動中に、モバイルアプリケーションからシステムにセキュアにアクセスして、信頼できる情報を手に入れ、業務を処理することができます。

統合とワークフロー制御—M3 Cloudは、インフォアのみドムウェアであるInfor IONを搭載し、M3 Cloudをインフォアだけでなく他社のシステムとシームレスに統合することが可能です。どこにデータがあって、どのアプリケーションから発生したデータであっても、データと情報のワークフローを統合して管理することができます。何らかの変更があった場合、あるいはアクションが必要な時には、ユーザーがどこにいても、タスク要求やアラートをモバイル機器で受け取ることができます。

文書管理—M3 Cloudは、業務文書や画像を一元管理するリポジトリとなるInfor Document Managementを搭載しており、任意のソースから文書を追加・編集することができます。また、機械入力あるいは手書きの文書など、あらゆる文書をデジタルフォーマットに変換して、業務プロセスと連携させることができます。

ビジネスインテリジェンス (BI)—M3 Cloudは、あらゆる財務分析や業務分析、パフォーマンス管理を組み込んだ最先端のBIプラットフォームであるInfor Birstと統合することが可能です。BirstとM3の両方から重要な戦略的かつ戦術的なビジネスインテリジェンスを提供することで、組織のあらゆるレベルのユーザー業務をサポートします。コアとなるERPシステムにあるコンテンツの利用価値が高まれば、システムのカスタマイズが不要になり、他社ソリューションを使わなくても、必要な情報を、必要とされるコンテキストで、ユーザーに提供できるようになります。

企業力を高める

Infor M3 Cloudは、業務処理のためのコストでしかなかったERPシステムを、価値を創造するソリューションへと変革します。

M3 Cloudなら、ユーザーをそれぞれの役割や業務内容に最も適した方法で、データやビジネスプロセスに結び付けることができます。

M3 Cloudは、組織にとっての重要度に応じてタスクを優先付けして、アクションが必要な時に、ユーザーの業務に関連するインサイトを、信頼できる情報とともに提供します。

Infor M3 Cloudのメリット:

- 包括的で業界に特化した機能が豊富なグローバルに展開できるソリューション
- SaaS型の価格設定でクラウドサービスとして利用可能
- インフラストラクチャを共有することで、総所有コストを低減
- 複数会社、複数サイト、多通貨、23か国語、42か国のローカライズ要件に対応
- 主要な業界向けに設計された導入アクセラレータを使って、ベストプラクティスなプロセスを短期間で導入
- ビジネスの成長に合わせられる拡張性
- 大幅なアップグレード作業に悩まされることなく、新しいインバージョンを活用
- 最新のユーザーエクスペリエンス、使う人の役割に応じたホームページ、ソーシャルコラボレーション、ワークフロー
- インフォアだけでなく、他社のアプリケーションとも簡単に統合

[Infor M3についての詳細はこちら >](#)

infor

インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。16,500人を超える社員が、170か国以上の地域で90,000以上のお客様を支援しています。詳しくは www.infor.jp をご覧ください。

Copyright 2018 Infor. 著作権所有。本書に記載されている言語表現およびデザイン記号はInforおよびその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。本書に記載されているその他すべての商標は、対応する所有者の所有物です。本文書は、情報提供のみを目的として配布されるものであり、いかなる事もコミットメントすることではありません。本文に記載の情報、製品、サービスは、予告なしに変更される可能性があります。 www.infor.com